

トラック輸送情報（平成18年2月分）

平成18年5月10日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、安達、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

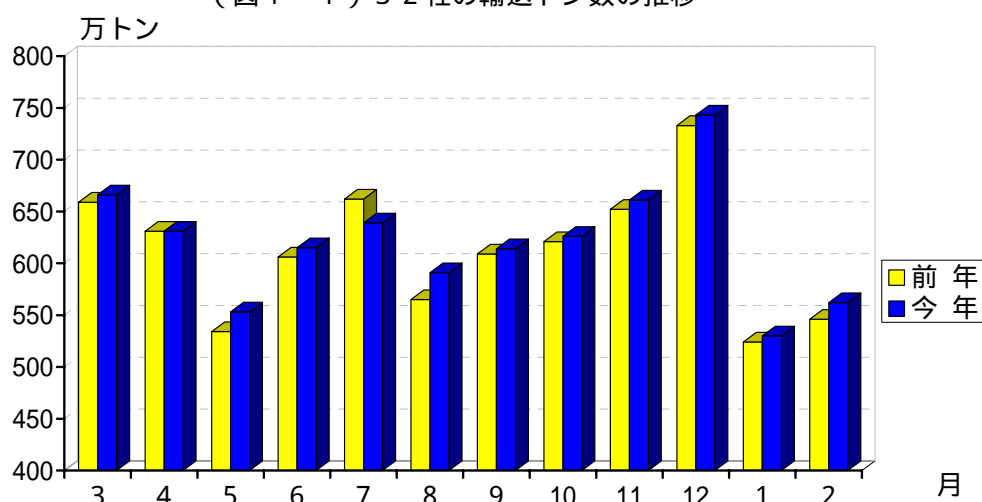
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,620,965 トンで、前月と比べ、総輸送量が約32万トン増加したため、前月比106.1%（季節調整済み101.0%）前年同月と比べ、約16万トン増加したため、前年同月比103.0%の実績であった。

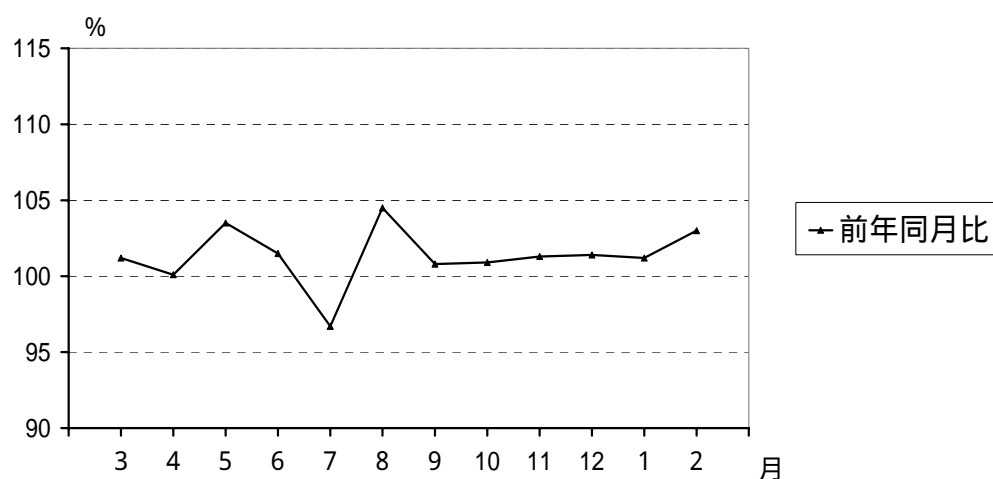
なお、平均稼働日数は22.8日で、前月と比べ1.1日の増加、前年同月比では0.3日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、246,534 トンで、前月と比べ、約2千トン増加したため、前月比101.0%、前年同月と比べ、約4千トン増加したため、前年同月比101.6%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



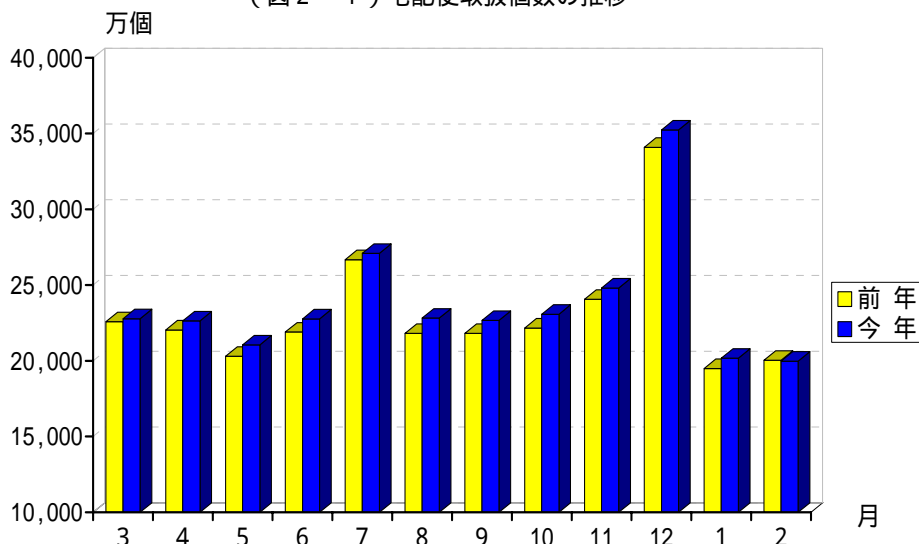
（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比



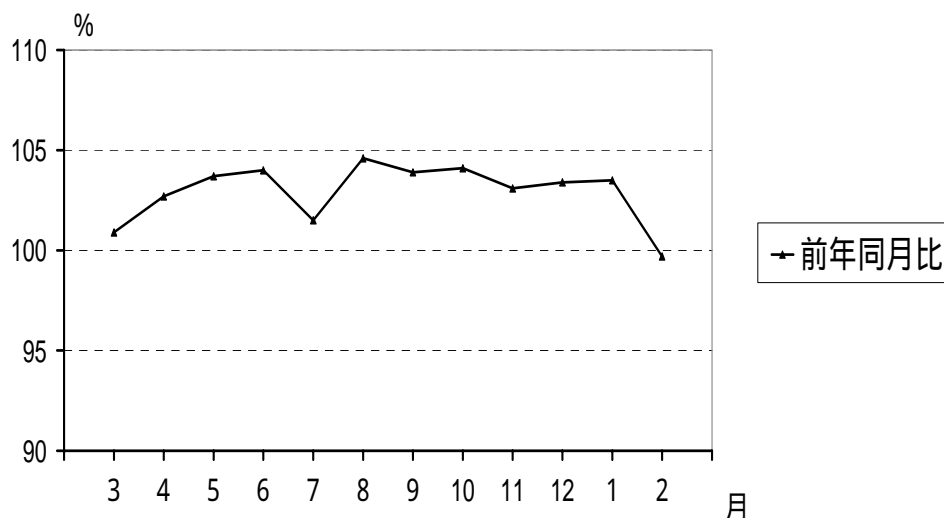
(2) 宅配便の概況

調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、209,494 千個で、前月と比べ、約 777 万個増加したため、前月比 103.9% (季節調整済み 96.8%) 前年同月と比べると、約 917 万個増加したため、前年同月比 104.6%の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、平均稼働日数が減少したものの、年度末に向けて増加を示した品目が多く見られた。理由としては、工場・生産地からの貨物増、季節的需要増であった。また、食料工業品、日用品では商社・問屋からの貨物増、化学工業品、繊維工業品、食料工業品では倉庫から出る貨物増も見られた。地域的には、金属製品が東京、関東、機械が神奈川、大阪、近畿、中国、化学工業品が東京、関東、兵庫、繊維工業品が兵庫、近畿、食料工業品が東北、関東、大阪、日用品が東北、東京、神奈川を中心に、それぞれ増加した。

前年同月と比べると、農水産品、金属製品、機械、化学工業品、食料工業品で工場・生産地からの貨物増が見られた。また、機械、化学工業品、食料工業品では倉庫から出る貨物増も見られた。一方、繊維工業品では工場・生産地からの貨物減が見られた。地域的には、金属製品が大阪、福岡、機械が大阪、近畿、化学工業品が東京、愛知、兵庫、食料工業品が大阪を中心にそれぞれ増加した。一方、繊維工業品、日用品が関東で減少した。この結果、全体としては、対前年同月比 103.0%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	減			
前月に比べて	農水産品		3	13	1	1	8
	野菜						
	金属製品	1	7	16	3		4
	その他の金属製品					東京、関東	4
	機械		7	19		1	4
	機械部品					北陸信越	4
	化学工業品		10	16	2		4、8
	合成樹脂、その他の化学工業品					神奈川、大阪、近畿、中国	4、7、8
	繊維工業品		6	21	1		4、7、8
	織物					関東地方、愛知、兵庫	4、7、8
食料工業品	1	12	13	2		4、5、7、8	
飲料、加工食品					東北、関東、大阪	4、5、7、8	
日用品		9	14	6		4、5、7、8	
身の廻り品、その他の日用品					東北、関東地方	4、5、7、8	
文具、その他の日用品					関東	4、7	
その他	1	4	19	3		2	
宅配便					神奈川、関東	2	
百貨店配送品							
前年同月に比べて	農水産品	1	2	12	3		4
	野菜					中国	4
	金属製品		5	19	2		4、7
	その他の金属製品					北陸信越、大阪、中国、福岡	4、7
	機械		7	17	2	1	4
	その他の機械					大阪、近畿	4、7
	化学工業品		8	18	3		4
	その他の化学工業品					北陸信越	4、7
	合成樹脂					関東地方、愛知、兵庫	4
	繊維工業品		1	24	4		4
織物、洋服					関東	4	
食料工業品		8	19	1		4、7	
飲料、加工食品					大阪、兵庫、中国、福岡	4、7	
日用品		4	17	6		4、5	
その他の日用品					北海道、東京	4、5	
書籍・印刷物、その他の日用品					関東		
その他		4	20	4			
宅配便					神奈川、関東、全国		
					神奈川、関東、大阪		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 798 社 / 調査対象事業者数 1,060 社）の輸送量は、前年同月比 101.0%、前月比 102.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.0%	101.8%	99.1%	94.3%	107.2%	100.4%	97.6%	103.7%	102.9%	102.0%	101.3%
前 月 比	102.5%	102.1%	100.3%	94.0%	106.9%	103.3%	110.0%	107.3%	100.9%	101.7%	114.7%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、稼働日数が少ないことから輸送閑散期として減少が見込まれたものの、道路環境の維持から「廃棄物（雪）」の輸送が増えたため、対前月比 102.1%、対前年同月比 101.8%であった。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに横ばい傾向と見込まれる。
東北	本月の輸送は、稼働日数が少なかったものの、農業稼働期前であることから「穀物」「化学肥料」が増加したとともに「機械」「食料工業品」が増加したため、対前月比 100.3%であった。対前年同月比は 99.1%であった。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに増加傾向と見込まれる。
関東	本月の輸送は、季節的需要により「化学肥料」が増加したのをはじめ、「金属製品」「機械」「揮発油」などの輸送量が増加した。一方、「穀物」「畜産品」「その他の石油製品」などの減少により、対前月比 94.0%となった。また、対前年同月比においても 94.3%となった。今後の輸送見通しは、引き続き次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
北陸信越	本月の輸送は、「揮発油」の減少が見られるが、「木材」「砂利・砂・石材」「その他の窯業品」「廃棄物」の工事関連資材の品目で増加が見られた他、前月が正月休みで輸送量が減少していたため、対前月比 106.9%、対前年同月比 107.2%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも増加傾向と予想される。
中部	本月の輸送は、「その他の農産品」「工業用非金属鉱物」「繊維工業品」「取り合せ品」について減少が見られるが、建設需要の伸びにより「セメント」が増加したのをはじめ、「金属製品」「機械」「その他窯業品」「食料工業品」「日用品」が増加したため、対前月比 103.3%、対前年同月比 100.4%となった。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横ばい傾向が見込まれる。
近畿	本月の輸送は、正月休みのあった前月と比べ、対前月比 110.0%と輸送量が 1 割増加した。品目別には「金属製品」「機械」「その他の化学工業品」「食料工業品」「日用品」が増加した。対前年同月比は 97.6%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向が見込まれる。
中国	本月の輸送は、「鉄鋼」の輸送量が鉄鋼関連メーカーの就業日数が増加したことや船便からトラック便への振替があったため大幅に増加した。その他、「工業用非金属鉱物」「機械」「その他の窯業品」「食料工業品」も生産の増加により輸送量が増加した。一方「穀物」「その他の農産品」「紙・パルプ」が生産量減少等により輸送量が減少した。その結果、対前月比 107.3%、対前年同月比 103.7%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と思われる。
四国	本月の輸送は、建設需要の伸びにより「セメント」、季節的需要により「野菜・果物」「化学肥料」が増加したとともに、「紙・パルプ」「食料工業品」が増加した。一方、「鉄鋼」「揮発油」が減少した。この結果、対前月比 100.9%、対前年同月比で 102.9%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向にあると思われる。
九州	本月の輸送は、建設需要の伸びにより「砂利・砂・石材」「セメント」「その他の製造工業品（ポリエチレン等）」が増加したとともに、「食料工業品」「鉄鋼」「金属製品」も増加したため、対前月比 101.7%、対前年同月比 102.0%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに増加傾向と見込まれる。
沖縄	本月の輸送は、「野菜・果物（ゴーヤー）」「金属製品（建築用金属資材）」が減少したが、「食料工業品（ビール・飲料水）」「取り合わせ品（雑貨類）」「その他の特産品（切り花等）」が増加したため、対前月比で 114.7%、対前年同月比では 101.3%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに増加傾向が予想される。

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			越							計
1. 穀物	増	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	減	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	5
2. 野菜・果物	増	0	0	0	1	0	1	0	2	3	0	7
	減	1	0	0	1	0	0	0	1	2	1	6
3. その他の農産品	増	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
	減	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	5
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
5. 水産品	増	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	4
	減	2	1	1	0	0	0	0	0	2	0	6
6. 木材	増	1	0	0	2	0	0	1	0	2	0	6
	減	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9. 金属鉱	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	7	1	0	1	0	0	1	0	3	0	13
	減	7	2	0	0	0	0	1	0	0	0	10
11. 工業用非金属鉱物	増	0	0	1	0	0	0	3	0	2	0	6
	減	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	4
12. 鉄鋼	増	0	0	0	1	0	1	6	0	3	0	11
	減	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
13. 非鉄金属	増	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	5
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14. 金属製品	増	0	0	2	2	1	2	1	0	3	0	11
	減	1	0	0	2	0	0	1	0	1	1	6
15. 機械	増	1	2	3	1	2	3	4	1	2	0	19
	減	0	0	2	1	0	0	2	0	1	0	6
16. セメント	増	2	1	0	1	2	0	1	2	5	0	14
	減	2	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5
17. その他の窯業品	増	0	0	0	3	1	0	2	0	0	0	6
	減	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	4

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増
18. 揮発油	増	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	4
19. その他の石油製品	増	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	4	2	1	1	0	1	1	0	0	0	10
20. コークス・ その他の石炭製品	増	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21. 化学薬品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
22. 化学肥料	増	0	1	2	1	0	0	1	1	1	0	7
	減	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24. 紙・パルプ	増	0	1	0	0	0	2	0	3	1	1	8
	減	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	4
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
26. 食料工業品	増	2	4	1	0	1	3	3	3	3	1	21
	減	2	1	1	0	0	0	1	1	1	0	7
27. 日用品	増	0	1	1	1	1	1	1	0	2	0	8
	減	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	4
28. その他の製造工業品	増	1	0	0	0	0	1	1	1	4	0	8
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4
	減	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
32. 廃棄物	増	9	0	1	1	0	0	0	0	0	0	11
	減	7	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	5
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
35. その他	増	0	0	3	0	1	2	2	0	0	1	9
	減	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	5